

GCS基本的な取組内容

学校と地域の一体化（これまでの学校と地域の交流から一歩進めて）により、地域の方々と子どもたちが笑顔になれる三つの取組を進める。

- ①地域の方々が学校教育に協力し、参画する。
 - ②子どもの暮らしや学びを見守り、支える。
 - ③子どもが地域に参加・貢献する。
- そのために、四つの部会を置いて活動していく。

合言葉「実感ある取組や連携を大切にしていこう！」

※「GCS」… 五小 (Gosyou) ・コミュニティ (Community) ・スクール (School) の頭文字をとった名称

※「コミュニティ・スクール」…

学校運営協議会（コミュニティ・スクール委員会）を設置し、保護者・地域等の方々が、教職員とともに学校づくりの当事者となって、より良い学校づくりを目指していく学校

GCSの組織

GCS委員会（校長含めて10名 学校評議員を兼ねる）
＜学校経営方針の承認・評価・意見具申等＞

拡大GCS委員会

（上記委員にGSS〈学校支援地域組織〉運営委員と前学校評議員を合わせた13名）

福生第五小学校
PTA



コミュニティ・スクール室

各部会の主な取組

学校地域交流部会

- 芝生の管理活動、花植え等の学校と地域の交流活動
- ①花いっぱいコンテスト花植え（春・秋）
 - ②検温・見守り ※写真
 - ③芝生の管理
 - ④体力テスト見守り・コーディネート ※写真
 - ⑤お雛様飾り付け
 - ⑥五月人形の飾り付け



安全・安心部会

- 登下校の見守り、水防災訓練コーディネート等の活動
- ①登下校の見守り活動
 - ②七五三挨拶ストリート運動
 - ③通学路・スクールゾーン点検 ※写真
 - ④持久走大会の見守り ※写真



愛鳥・環境活動部会

（NPO法人自然環境アカデミー後援）

- ①春・冬の野鳥観察会 ※写真
- ②秋の自然観察会 ※写真
- ③巣箱制作、巣箱掛け・外し
- ④稲の栽培



教育活動支援部会

- 授業・体験活動等の支援
- ①放課後学びタイム支援（赤ペン先生）※写真
 - ②運動会の受付（感染症対策）・補助 ※写真
 - ③漢字検定支援
 - ④地域学習やモノづくり等のゲスト・ティーチャー



令和4年度

～福生五小コミュニティ・スクール通信～

GCSだより
No.1 令和4年6月発行



“にんげんっていいな”

五小コミュニティ・スクール委員長 撰梅 敏夫

人間は社会をつくる上で三つの自由を手にしてきた。「動く自由」「集まる自由」「語る自由」です。これらを制限したのがコロナ禍でした。三つの自由をセットにして、人間が手にしてきたのは「出会い」と「気付き」、動いているいろいろな人や自然、動物、鳥たちと出会い、そして集まり対話して新しい気付きを得てきた。この気付きが人間の未来をつくってきた。ところがコロナ禍ではSNSを通じて様々な情報発信がされ、自分と近い意見が集まるSNSは、結果的に人々を特定の世界に閉じ込め、人の分断が生まれた【難しいことを書きましたが子供たちも大人も同じテーブル：『人間らしさとは』に座っています】。この考えはゴリラの研究に携わってきた山極寿一さんの著書で教わりました。

先日マイカーのナビで行先を入れ目的地に向かう時に、時間と距離を優先させたナビが選んだ道があいにく車が一台やっと通れる長い道で何と対向車が来て大変な苦勞をしました。独り言でナビに怒ったら「この道を選んだのはあなたでしょ！」。ゴリラは危険を察知して自ら道を選ぶと言った著者の言葉を思い出しました。70歳を過ぎた今でも私はいろいろな失敗を重ね段々と目的に近づこうとしています。

それぞれ子供たちは進級して小学校高学年、中学・高校と進むにつれて、ますますスマホ他情報機器との付き合いが増えてくると思います。ネット社会でみんなのスマホ依存、SNS疲れを心配しています。ネット検索した結果をそのまま「答え」とすることは簡単ですが、たまには試行錯誤して答えを見つけるため本を読んだり調べたりすると覚えたことを忘れません。ゲームは目(視覚)と耳(聴覚)しか使いません。五感の残り：鼻(嗅覚)、舌(味覚)、皮膚(触覚)を使うと“にんげんっていいな”と感じられることが増えるかも知れません。

子どもと共に学び、地域と共に成長する学校

福生第五小学校長 泉田 巧人

社会が複雑化・多様化し、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化するとともに、今なお続くコロナウイルスへの対応により生活様式も大きく変化してきた現在、学校では様々な課題が山積しています。このような状況下において、教育活動を更に充実させるためには、学校、家庭、地域が連携・協働し、学校運営に取り組むことが不可欠です。コミュニティ・スクールは、地域の声を積極的に学校運営に生かし、学校と地域全体が力を合わせて一体となり、特色ある学校づくりに取り組むことが可能となります。

さて、「先生、鳥の羽が落ちていたよ。」「先生、鳥は好き。」「鳥のこと知っていますか。」これは、私が赴任してすぐに子どもたちから掛けられた言葉です。本校が地域と共に歩みを進めてきた愛鳥活動が子どもたちに根付き、心を耕していることを実感しました。また、運動会の受付や実施の補助、放課後学びタイムでの赤ペン先生として教室での丸付け、米作り、野鳥観察会など学習や行事に様々な支援をいただき、力を合わせて学校運営を進められています。

今後も、将来を担う子どもたちを育成するため、学校を核とした地域との連携・協働の取組を推進し、子どもと共に学び、地域と共に成長する学校をつくってまいります。